

平成 25(2013)年度 「英語能力判定テスト」における 淡路中学校の結果の概要と今後の取組について

大阪市では、生徒の英語力の充実と向上を図るため、教育振興基本計画*に基づき、英語イノベーション事業*の一環として、「英語能力判定テスト」を実施いたしました。このテストの目的は、生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、学校における英語の指導の改善を図ることにあります。

学習指導要領における中学校英語の目標は、4技能（「読む」「聞く」「話す」「書く」）を総合的に活用できるコミュニケーション能力の育成と示されています。本テストで測定できるのは英語力の一部ですが、本校では、結果をふまえ、生徒の総合的な英語力向上を目指してまいります。

- 1 目的 (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
(2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の改善、工夫に役立てる。

2 対象 大阪市立中学校 全生徒

3 実施日
・3年生 平成25年10月21日（月）
・2年生 平成26年 1月27日（月）
・1年生 平成26年 1月27日（月）

4 内容

学年	テストの種類	テストの難易度	テスト内容		満点スコア
			筆記問題	リスニング問題	
3年	テストD	英検3～5級レベル	50題	30題	460点
2年	テストE	英検4～5級レベル	40題	25題	400点
1年	テストF	英検5級レベル	25題	25題	340点

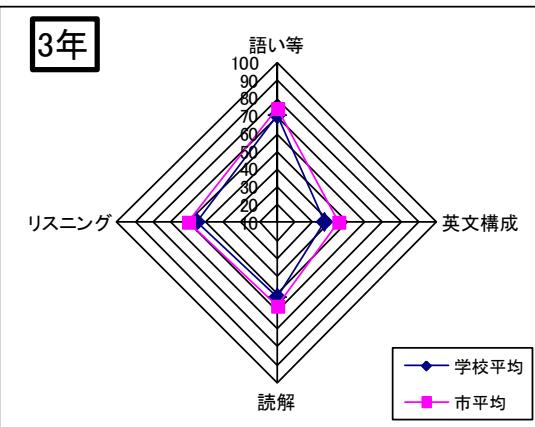
* 教育振興基本計画…本市の教育振興のための施策に関する基本的な計画

* 英語イノベーション事業…本市の英語教育強化を図るための事業

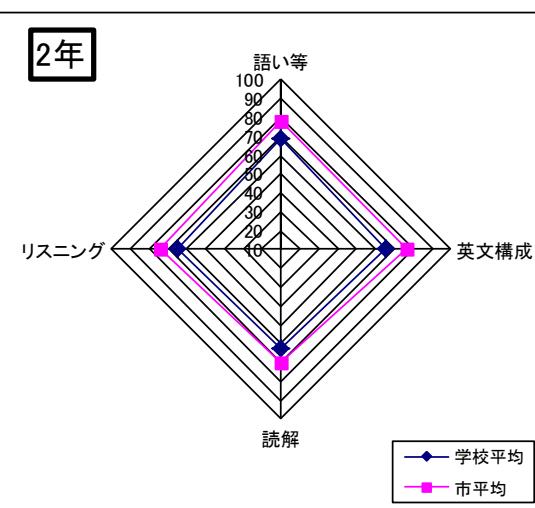
「英語能力判定テスト」結果(分野別正答率)の概要と今後の取組

※各学年において実施したテストはそれぞれ種類が異なるため、学年間の正答率を比較することはできません。

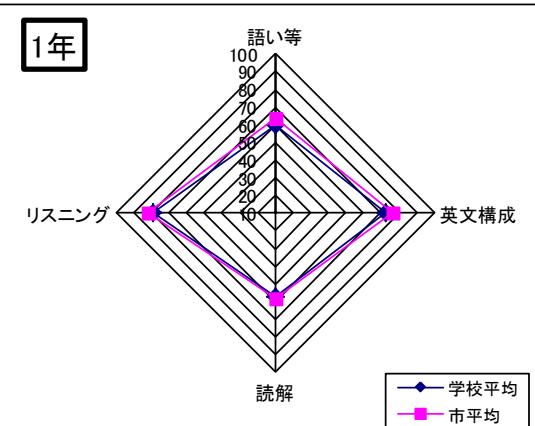
3年	語い等	英文構成	読解	リスニング	(%)
学校平均	71	37.3	51.8	55.4	
市平均	74.8	44.9	56.4	59.9	



2年	語い等	英文構成	読解	リスニング	(%)
学校平均	69	65.3	62.2	64.7	
市平均	78.5	76.1	69.7	74.2	



1年	語い等	英文構成	読解	リスニング	(%)
学校平均	59.7	72.7	57.1	78.9	
市平均	63.3	76.2	58.4	81.8	



結果の概要と結果をふまえた今後の取組

3年

英検3～5級レベル:スコア 0～460点

《結果の概要》

「語い等」の分野の正答率は約7割と高い一方、「英文構成」については4割弱程度にとどまっているとともに、大阪市平均との差が大きい。「英文構成」の指導を充実させることが必要である。

《結果をふまえた今後の取組》

学力の程度の2極化の傾向は、他の教科と同様、なかなか解消できない。3年時では、これまでの学習の積み重ねを大切にしつつ、とりわけペア学習に取り組んできたが、今後は、C-NETとのTTをはじめ、ICTの活用、ペア学習のより効果的な導入など、授業をより一層工夫するとともに家庭学習の充実にもつなげたい。

2年

英検4～5級レベル:スコア 0～400点

《結果の概要》

「語い等」の分野の正答率は約7割と高い一方で、大阪市平均との差は、すべての分野で7.5ポイントから10.8ポイントと大きい。全体的な学力向上が必要である。

《結果をふまえた今後の取組》

学力の程度の2極化の傾向は、他の教科と同様、なかなか解消できない。2年時は、文の構成の定着に取り組んだが、今後は、C-NETとのTTをはじめ、ICTの活用、協働学習の効果的な導入など、授業をより一層工夫するとともに家庭学習の充実にもつなげたい。

1年

英検5級レベル:スコア 0～340点

《結果の概要》

「リスニング」の分野で正答率が約8割、「英文構成」で7割強と高い。その一方で、大阪市平均との差は、すべての分野で1.3ポイントから3.6ポイント下回っている。

全体的な学力向上が必要である。

《結果をふまえた今後の取組》

学力の程度の2極化の傾向は、他の教科と同様、なかなか解消できない。1年時は、単語を覚えるとともに、英語を英語で理解するように取り組んできたが、今後は、C-NETとのTTをはじめ、ICTの活用、協働学習の効果的な導入など、授業をより一層工夫するとともに家庭学習の充実にもつなげたい。